

9月15日(金) ワークショップ第2室(721)

推測における語彙 (lexis) の役割

The Role of Lexis in Inferencing

佐藤久美子 (玉川大学)

リーディングに於いては、スキーマを利用したトップ・ダウンの読み方が強調されてきたが、その際に働く推測の概念はスキーマによる推測だけではなく、テキストに存在する語が引き金となって起こる語の意味的プライミング効果に由来しているかもしれないと考えられるようになってきた (word-based priming)。これは、自動的なプロセスであり、読解のための認知的な努力は行なわれず、誤ったスキーマを活性化する危険性がある。そこで本研究では、学生のリーディング・タスクから得られたデータによりこれを実際に示すと共に、テキストに存在する語彙 (lexis) の関係に注目することが、いかに談話の推測、理解に効果的であるか報告したい。そもそも適切なスキーマを活性化させるということがいくつかあるスキーマの中から適切なものを選ぶとき、何が手掛かりになるかということについての研究が不十分であったと思われる。スキーマは抽象的な思考であり、抽象的な思考は具体的な状況に則して、具体的な状況の中での意味と結びついて発動すると考えられる。そこで語の結びつき、特に意味ネットワークを利用した結束性に着目することは、適切なスキーマを活性化させ、リーディングの指導にも有益であると報告したい。

The Lexical Approach: その理論と教育的意義

The Lexical Approach: its theory and pedagogical implications

島本たい子 (東海大学)

最近、第二言語習得における lexical な言語知識の重要性、優先性が指摘されている。例えば J. Nattinger and J. DeCarrico (1992) は lexical phrase を一つの基本的な言語単位 (unit) として捉え、それを基に学習者が第一言語習得者同様にいわゆる 'prefabricated language' を使って第二言語の理解、発話、分析のしかたを学ぶという英語教育の新しいアプローチを示した。また D. Willis (1990) はコンピュータを利用した大規模な言語コーパスの分析による lexical unit の研究が効果的なシラバスデザインに重要な役割を果たすと述べ、言語教育を lexical な視点で捉えることの重要性を強調している。

こうした流れの中で、M. Lewis は *The Lexical approach* (1993) を著し、lexical unit を中心に据えた新しい英語教育の方向性を示した。彼の基本原理の多くは、すでにコミュニケーションアプローチでおし進められてきたものと同じだが、最も大きな違いは、実際の言語使用における lexis の本質をより理解し、それを言語教育に応用しようとしたところにあると言えよう。本発表では D. Lewis の理論を 1. Background, 2. The nature of lexis, 3. Theoretical principles, 4. Methodological implications などの点から考察し、その理論と教育的意義について考えてみたい。